

新市誕生に伴う市長選挙が行われ、可知義明市長が就任しました。厳しさを増す財政状況の中、これまで進められてきた個性的な地域づくりを、広くなった市でどのように引き継いでいくのか。「新市において調整する」とされた合併の協議項目をどのように調整していくのか。さらに少子高齢化や地方分権など新市に突きつけられた課題は多い。

今回の広報では、年頭に当たり、五万七千市民からまちづくりのかじ取りを託された可知市長に、市政への抱負などを伺いました。



いかに暮らしやすい環境を、市民の皆さんと行政が一体となって考え、つくっていか

私が市政を担当するに当たっての基本的な考え方、「いかに暮らしやすい環境を市民の皆さんと行政が一体となって考え、つくっていか」。この信条に基づいた三つの姿勢をお話します。

**夢と希望のある
新生恵那市の基盤づくり**

一つは夢と希望のある住みよい新生恵那市の基盤づくりです。合併協議会で調整されたことをこれから実施していくわけですが、調整事項を市長が実行しないことには何もなりません。また合併の協議事項には、四割程度の未調整項目があり、新市の市長が定めることとなっています。

それを市民の皆さんが納得できるような調整をしていきます。これを実行することが新生恵那市の基盤になります。

陸上のグラウンドを想定してください。未整備なのでこぼれたグラウンドです。いくら素晴らしい選手が走っても、記録は出ません。しっかりと良いグラウンドにして、まちづくりという選手が思いっきり走ることが出来る基盤をつくることです。基盤が整った上で、夢と希望のある住みよいまちづくりを進めていきたいと思っています。

**歴史や文化を大切に
した個性豊かな地域づくり**

二つ目は地域に伝わる貴重な歴史や文化をしっかりと守っていき、さらにそれに伴って培われてきたまちづくり、地域づくりを大事にしていきたいと思っています。「この恵那地域には、それぞれに貴重な歴史や文化があります。そしてそれに培われた地域づくりがあります。地域の素晴らしい貴重な歴史や文化が、合併したために停滞したり、あるいはブレイクが掛かったりしてしまうことがな

人・地域・自然が 調和した交流都市



可知義明（かち・よしあき）昭和11年9月25日生まれ。昭和30年岐阜県立恵那高等学校を卒業し、恵那市役所勤務。経済部長、総務部長などを歴任し、平成7年から11年まで恵那市助役。助役退任後、中津川・恵那広域行政事務組合事務局長、恵那郡町村会事務局長、恵那市・恵南町村合併協議会顧問などを務める。平成16年11月、新恵那市の初代市長に就任。座右の銘は「誠心誠意」。妻、長男夫婦、孫2人の6人暮らし。大井町。

**大切なのは
納得してもらうこと**

サービスや負担の不公平感がない基盤づくりをしなければいけません。が、すべての行政サービスが定規で線を引いたように一律になるとは限りません。あの地域はこうだけど仕方ない、この地域にとつてこれは大事なことから認めてやるという話し合いをしていきたい。それが納得です。

そのためには行政と市民が一体となるまちづくりが基本。一体となるためには、行政の情報開示や市民との話し合いを進めていきたい。コミュニケーションを密にして、この地区にはこれが必要だと皆さんに知ってもらって、納得してもらう調整をします。

私は農家の次男坊なので小さいころよく畑を耕しに連れて行かれました。良い畑を作るためには、周辺からしっかりと耕すことが大切です。雑草は周辺から生えて荒れてきます。周辺をきちっとしているのが良い畑づくりです。まちづくりも同じだと思います。周辺をしっかりと整備すれば、自然と真ん中も良くなり、全体が良くなります。私の地域づくりはそれが基本です。地域文化を一生懸命大切にしてい

いように、しっかりと進めていきます。個性を持った地域づくりを生かしてお互いに切磋琢磨してもらえれば、市全体が個性あるまちになっていきます。このことによって新生恵那市の活力が生まれてくると私は信じています。

**足腰の強い
行財政基盤の確立**

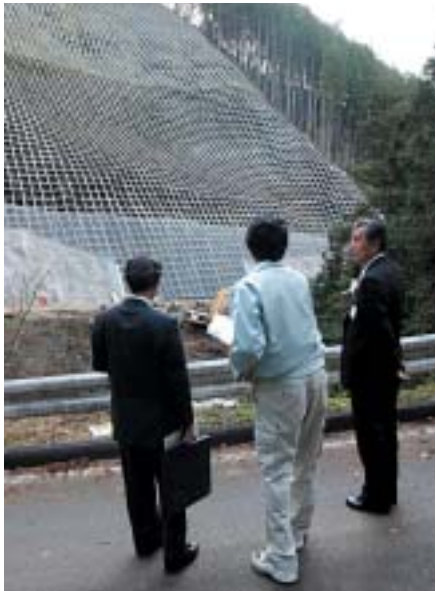
三つ目は、足腰の強い行財政基盤の確立であります。地方分権で権限を地方に移譲してもらうことは、国

や県から市に仕事が増えること。それをしっかりと受け止め、受け皿としてやっていけるような行政体制と職員が必要です。国や県に頼ってきた今までの市町村行政は、もっこれからはあり得ません。

財政も同じであります。三位一体改革をはじめ、いろいろな改革が進んでいきます。これまでのように地方交付税や補助金がどんどん来るようなことはありません。地方分権によって市に裁量権ができること。から、自立していかなければなりま

せん。国や県がこれをやりなさいと言ってくる時代ではなくなりま。市が自分で選択して仕事をする時代です。職員には、国や県の職員と同等以上の能力が必要です。職員の能力がないことは住民の不利益につながります。能力と力のある体制づくり、これが行財政基盤になります。

以上の三点が私の基本姿勢です。それを念頭に置いてこれから施策を展開したいと思っております。市民の皆さんのご協力をお願いします。



人や車のない人でも地域のことが分かります。交流によって一体感を醸し出していききたい。さらに新潟中越地震を教訓に、防災体制の再点検を実施したい。情報に関する防災ネットワークをきちっと整備し直さなければいけないのではないかと思っています。

子育て支援に重点

県の人口統計で二〇二五年には二百万人が百七十万になるという推計があります。これを恵那市に当てはめると、五万七千人が四万二千人に、一万五千人減る推計です。人口が減るといことは子どもが減り、高齢化することになります。高年齢化するとまちに元気がなくなります。それでは困るので、子育てを支援していききたい。その一環が乳幼児医療の六年生までの無料化です。これは着実に実行しなくてはならないと思います。さらに、今の若い人たちは親と一緒に住んでいませんので、子育てや子どもを産むときの相談相手が少ないようです。子育て相談の体制を充実させていききたい。

一体性を高めるための交流を促進

市民に一体感を持つてもらうためには、人の交流が必要となります。人が交流することによって地域を知り、恵那市全体が分かります。この地域にはこういうものがあるということを知ってもらわないと、市民に一体感が出てきません。人の交流のためには、道路網と情報網の整備が必要です。情報があれば、足の悪い



やはり子育て環境は大変厳しいと思います。恵那市は乳幼児医療を大きく扱いましたが、それ以外に小さな項目で子育て支援策がたくさんあると思います。特にお母さん方や女性の声を聞いて、きめ細かな施策を展開していかなければいけません。子育て支援と併せて、若者がこの地域に定着してもらうことも大切です。そのためには雇用の場が必要で、と言つても今の時代、優良企業に恵那市へ来て工場を造ってくれと言つてもなかなかできる状態ではありません。優良企業に来てもらうのではなく、既存の企業が事業を拡張してもらえように着眼して働き場

所をつくっていきます。

医療・保健・福祉の安心ネットワークを整備

病気に掛かったら医者へ行きま。しかし、治ったらそれで終わり。大切なのは、その後どうしていくのかというケアを考えていくことです。そして別の病気になるための予防も必要です。これは医療と保健と福祉が連携しないとできません。健康で安心して長生きできるための医療・保健・福祉の連携による「安心ネットワーク」を整備したい。これを考えたのは介護保険の認定審査の仕事をしていた時です。介護を受ける人はケアが必要で、病気になるように予防も必要です。そのためには、医療と保健と福祉の連携が不可欠です。それをしっかりと考えていきたいと思います。



この三つの連携とかかわってきま

すが、旧恵那市の健康都市宣言を継承して一人スポーツを勧め、健康都市を推進したいと思っています。

水道をはじめ社会生活基盤の充実

あと強調して言っておきたいことは、社会生活基盤の充実です。特に旧恵那市には水道の未普及地区があります。水道は人間生活の最小限の生活基盤だと思えますので、何を置いてもぜひ実施したい。下水道については、個別方式など方法はいろいろありますが、充実していききたいと思っています。

職員には意識の改革を

青い山脈の歌詞「古い上着よ、さようなら」ではないですが、職員は意識改革をしっかりとっていかないと

から、これでもいいのだではなく、新市の職員として考えていく。何のために合併したのか、どういう効果を挙げたいのか、合併協議会の中で二百人以上の職員を減らすことになっており、これから職員は順次減っていきます。その中

でどういう仕事をしていくのか。いつまでも旧六市町村の形態で仕事を考えていてはいけません。

いかに地域づくりを進めるか

地域の皆さんが心配しないように、地域を守り、発展していけるような仕組み、地域のことが地域の人が一生懸命やってくれるような仕掛けを考え、職員はこれを指導していかなければいけません。市の職員が地域づくりをいかにフォローしていくかがこれからは問われます。新市のまちづくり計画を策定しなければいけません。総合計画も地域住民の意見を大事にしながら、つくっていかなければいけません。できるだけ、市民の意見を聞いてそれを反映させるためには、地域にしっかりととした組織が必要になってきます。

さらに各種の行政委員会の構成にも性別が偏ることがないように、また多くの若者にも参画してもらって意見が反映できるような市政を目指したいと思っています。

初めに言つたように、行政と市民が一体となって暮らしやすい、住みやすい環境をつくっていくことが基本ですから、それに向けた施策を展開していききたいと思っています。

市長から職員へ五つのメッセージを紹介

職員の皆さんに私から申し上げたいと思います。

職員は市長の補助機関であり市長として、仕事をしてください。窓口においても、現場においても、市長の代行をするわけですから、市長の代わりにやっている感覚で仕事をしてください。

地方の時代、地方分権もどんどん進んでいきます。皆さんの能力が市民の暮らしに影響します。他市の行政サービスと比較した話も必ず出てきます。しっかりと考え、研さんを積み、自分のまちのことはしっかりと自分でできる感覚を持つていただきたい。

市民の声をしっかりと聞いてください。まず聞くことです。そして上司に伝える、私にも伝えてください。そうした声を少しでも、それが例え数パーセントであろうと反映していくことが、私の市政に対する気持ちであります。そして市民の目線で物を考えてほしいと思います。

市民は市役所へ行けば何でも分かる、市の職員に聞けば何でも教えてくれるという感覚でいます。市がどういう仕事をしているか、しっかりと勉強して答えられるようにしてください。

市役所は大変暗いと言われています。明るい顔をして来庁者にはしっかりと声であいさつをしてください。決して明るくない世相でありますので、市民に対して市役所がそういう気持ちで立ち向かっていくことが市を明るくしていく、生き生きとしたまちづくりができると思います。来庁者には明るくはつきり、「おはようございます」「こんにちは」と言ってください。

これから私と一緒に新しいまちづくりを進めていきます。私も一生懸命やりますから、皆さんも私にご協力をいただいで、一丸となって新生恵那市のまちづくりに取り組んでいききたいと思っています。



(十一月一日、市長職員訓示から抜粋)